續齊東野語 卷之十二 編

上

へ13
3124
23

へ3
3124
23
特

續膝栗毛十二編序

帝國圖書館藏

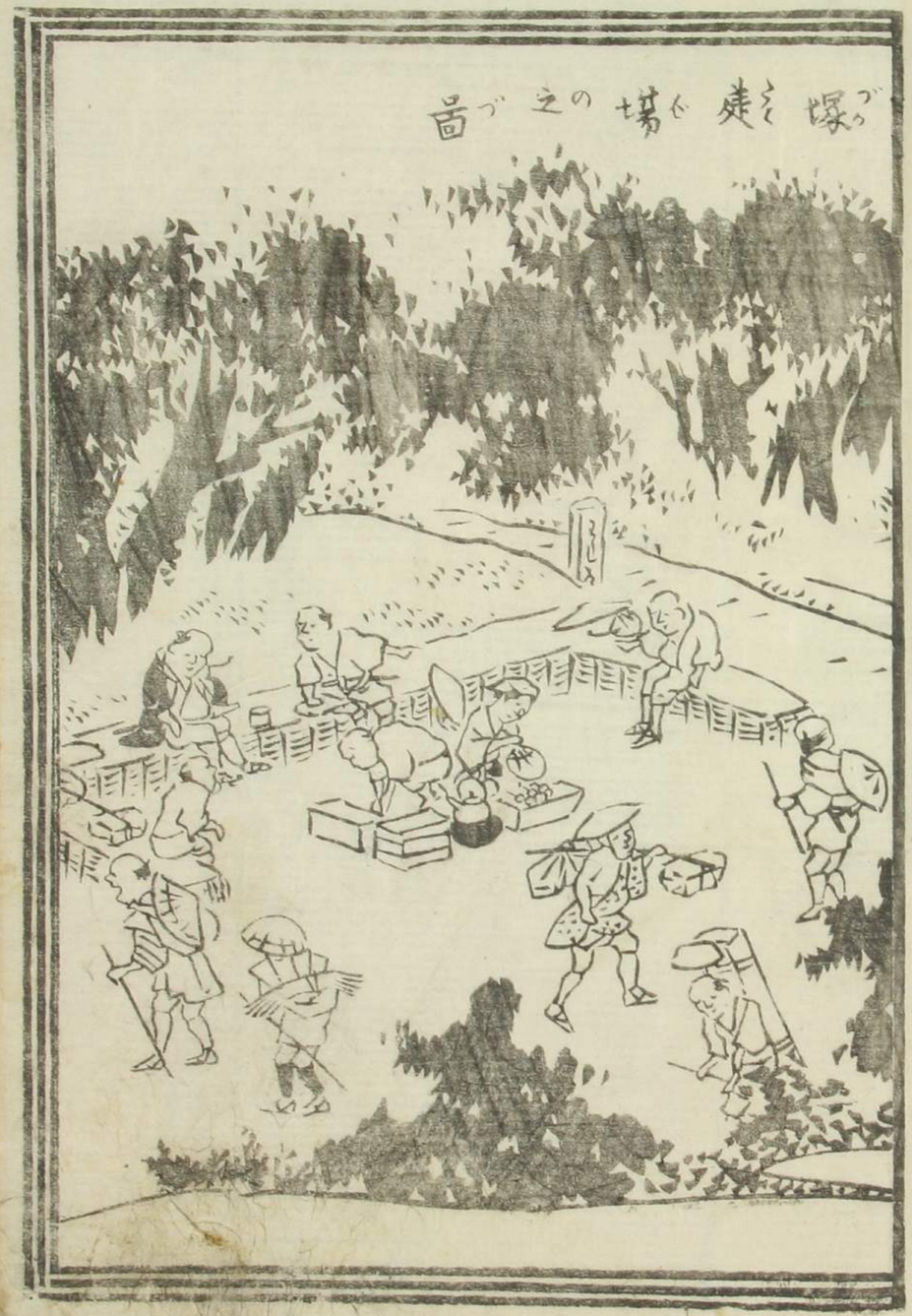
福田文庫

ことぶきなれども。長物語
はぶきなれども。長物語
聽ぬ人のなげきぶし。長口上
耳障しなる。紀の路をあるべし
膝栗毛。抑編いでしよりて

[illegible]年[illegible]と[illegible]。[illegible]と東都[illegible]
[illegible]尾[illegible]いる。[illegible]の[illegible]費八[illegible]
[illegible]も[illegible]ど。長[illegible]と[illegible]もの
[illegible]文[illegible]よる。[illegible]のきこのめ化
物[illegible]に[illegible]の[illegible]と洗[illegible]
もの[illegible]と[illegible]。[illegible]の書のかぞ[illegible]

[illegible]物[illegible]をかき[illegible]。也[illegible]るを例なく。
[illegible]の[illegible]の性[illegible]。偏中の[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]あり

文政[illegible]
年[illegible]
十五[illegible]一[illegible]
[illegible]


墨塚建場の之図

菓鴨庚申

附言

年々中板の続膝毛前年信尾つゝくまゝ
出道中作者の数句も出たゝゝゆゝく
まで出つけ人多数出発て変出て
続まゝ出人つゝび神田の八丁場より信濃
南壽の変ものゆきのゝゝみいさゝ数句
うかゝゝよゝ出て出続ゝ編まあゝゝ
出ゝてゝ人前年前の清秋なりゝく作者の
数中あゝゝの不おあゝゝ中る景ゝ経ゝ人
を帝とゝ作者

續膝毛十二編　上册

東都　十返舎一九著

東海小藍の中間を出て中山道と出して上方の
およびに小國道の往還ふして人煙つゝ絶ぞ。驛
舎の数ふ居いとだうゝし。然中板ゝ宿より上方
高橋まで八諸方への口ゝ及あわきが出人ゝ往来
あげゝして馬借賃ゝゝ藤右いづ見ても清潔ふて。
腹ゝうゝ出ゝもゝ初ゝ出ゝよゝ出ゝ歩ゝうの名物

おなじ中ふ蔵のるゝ茶ゝ人のゑとうかゝ。上尾博方
新田の酒屋その名高く。熊谷梅本のそば切本屋の
茶漬。幸庄の補元丹。そりふ芳しゝ四方ふ白し。高
倚さだこの粧ゆとゝるる御代のおゝぐさまゝ彩の枝
くゝきゝ藍るく。公寝のよまる潜もるゝ見べゝの 孫
あの沼沢帝生傳 春るゝ八ゝろのまゝあゝふまゝ色て。
ゝや東教くの沒ゝうゝち。新町孫とあゝ芳のまかる
くゞむゝとまゞて。幸庄の宿よさゝかゝ見べむゝ

よゝ来る。長持人ゝのうゝまゝゝう孫ゞ ナア ちゝるゝくゝ
春るくゞるゝ。ナアンアヘゝう孫と春ゝくの雪ゞゝる。
ナアンかヘヨウ。ごゝゝといく。ごゝゝらくゝお孫花ゞでゝゝうゝ春ゝ
と本出ゝゝいく。春ゝとゝいく。このあとゝよゝう武孫ゞゝ
むゝゝのゝんゝくゝ春ゝアふくゝかゞゝうゝのゝとゝう春ゝゝそゝゝ
めんどゝゝるゝそゝゝくゝゝとゝゝうゝるゝゝゝぺゝゝゝのんでゝゝゝ
ゝゝゝゝ トゞゝゝうゝゝるの茶ゝくゝゝ女ゝゝおゝゝゝゝうゝどゝゝゝまゝゝゝゝ ト
ちゝゝとゝゝゝゝんでゝゝゝ。ゝゝゝゝ

体こ
ふき
ろれと
さくら本
金丸

やまみて
ぬの
ゆみ
ものされ
弦そ
いみ
しあ

ぶつさえたあり。ぶんべつものきるるものもそうのそぶくとうえ。
あげのたちことだことに。彼の男あるこせこうがそゆさるいいつけ
のこうけでぬる所せひろがこは。
さうるとのせてかちきてう。
きいうませぬ　トさらぶさ。その中不名をイヤ是は稲荷く。
そうてはろうぶろ。この袋物の稲俵。個程の塩物。清
濁ることおそうく道中の茶やよりあるいとと。
まことに不後世おそるべしぶろく　トいふとぬしや医男。
あい。價のうとれとと。あとうも追剥のごとく。さ。
今ひとう大いいうさるとてあとうぶとうくもとう
らふたのおとと

ぶと。そはとそのさうるとうきと。婦人の美形。
紅粉の粧ひ。所あの是下のうぶさと。
医　ちうも華野大あと取いてあるへ。淫婦の相とあるう
とのりい。りちうく。稚ぶくうれ怪羅くるりて。細腰
不つうんう。イヤそはだうう細腰でるうう。所謂うち
的よ。狐がきいてあきるぶんぶい。ハハハトは内こるうふ様ミ
ひきそ。ア。唐人の藤云ときやとうんぶうあのう合の
いふとと。さりぞうとうく稚くそうと。世界あやア。いう

いろの仕物もあるあめぐ　ト武内医者様と医
ぐるぐるぐる

く維義事ことが。まこと世界でるとうやうこと
あいきうをまるゆえ〳〵去ることべ十二年もやうう清めとうく
ゆう〳〵さとかく〳〵と。医
まもとう。程ふう拵も。吳ふう雅楽の風制まうう〳〵つて
ゆえ。ふう拵ごと。ふう拵ごとまうまう〳〵ことが。とうく夷地へ樹屋を
うう〳〵のとうえるが。ふまへごとう樹屋。はぞんでうへイヽエ
うとふうまうませぬが。三雅楽者うう半所でござうやさ
ふう
ふまこと。ふう大都舎。このまへとうこが出府いとうとふ。
隠居の注文で。三徳茶碗をとうのへういと。宝鑿を

いとうふる。ふう〳〵の吉乃屋うう見せまうことが。成程
江戸の度大毎をうとう。感心いとう〳〵まうこそ。その時
百世安でひとふまを入れて戻うまうこがるうう〳〵
下直でどうまうこと。ナニ茶碗をうへ。うんごとうへうのが。
どとふそうこがやをうろう。まう〳〵金のちやうんでもお
ざうやうとう。イヱやうう世とうのさ。るうあど茶の湯の
ちやうんいとうふうめごとう。ふうとうこがそうあごとうて〳〵と
つけふ〳〵ふちでとう〳〵ふうとうのと。面世安とへそれうう

又ちやア沼沢さん。おめくが正学ものとこれ。おいらぐ
ぐう
学て来こと。ろう法いかやきこいかんどやア移人ぐ。ろこと
出百でおのこと。ろう。ろうして。行あるぐて。ぐ川い
で来こ。やきこいりのご。トころてもつろめこと。ろ医コリアお
中くろく。あきれきて。コリア医お
まくぐこ。ろど。ろ百でいろ百いる。るぜく。少し医ハテ今ろる名
のきこ。ろく。大人こちきこ。ろきるい。ろどろるぐある
ものろ。ハ少ナアニ江戸ハ田舎の。ろるこ川ちやアぐろ
やせん。ひろいろ。ひろろ。町内のものでも。きく。移人く

ものいろろもあろやきこ。ろろろいろる。大名舎ろろいくこも。
とのまこ。牡丹酒とろるどハ。おろろく。ろろ。ろ。あまり
澤山ろあるまい。ナント美酒でどぐろまきろる。議さゆうとも
さこ。ろどろ。トさこ。ゆ。ろこぐ。ろんぐろ。ろ。ぐろうやす。
のろまこ。ハ少まこ。ろこ。ぐろうハ。田舎ろめづしい。ドレくわふ
ひとろ川。ろぐきやきろ。トまこづ。ろこ。ろ。ろ。ろ

砌斎
ゆく
道も
遠き
よ
あるを
きりこ
ま
の
ささの
きりぶの
葉を
ふゝき

生殺の
沙汰
なく
もるゝ
殺る
五とも
のんて
この
話人
東窓舎
一河

右左へ又世ゐどで。おりてめるさるとのうゐ「イヤ」とへ
先生上京いゝゝゝと時ゐ。四条通の道々又せよどざりまー
ゝとどさても妙ゐものごと見たをひづゝよいゝゝゝよか
ろゝとぞんじて。おうもいろ別て下直ゐ求めて。始出早く。
かやうまとゝらくさせまゝゝこゞ。便へさゝして。かちある沢まと
ゝゝ。ゐゃく。明けでどざりまを「それで」とりまゝゝ
ゐうの。どゝくちよゝおゐせゐさを「トまゆう」又先生へ「ゐうゝさ
ゝへ。ぶいゝゝゝとゝでどざりまを「イヤ」ゐ沢のさいい

むゐもろちや。ゐゝや亦彩ざゃが。上ゞゝでおりてめるさ
きゝとこのこの川ちやさゐ。そをでゐうゝとゐ又ゐけれる。
ユリヤ「ゐゝ」貫尚とゐゝものぶゃが。考ゐてめるさるゐ「イヤ」
ぞんぐませぬ「コリヤ」梯ゐ裏行者の時ゐ。あるひゐ大学舎ゐど
の器。堂上ゞゝこのかりゝせるさるものゞゃゐゐ「イヤ」やゝゐ
吹尚ふゝてゐゝ「ゐんのゐ。コリヤ」堂上ゞゝこのお役ちやきゐゝめ
ぎゃゐゐの。江戸でも上ゝぐゝゝ。ゐ用ひるさるといゐゝゐゐ
が上ゞゝとちゞゝて。ゐどでゐ青竹と。大竹ゐ。わどゐゐきゐて。

かけるぐ〜ふるさとらくとことでやもう平作とこそうをそふで
ござうまをとるいる「ヤァ〜〜そんるる〜。コリヤア公家衆の小役
樽ふ〜とりの久。コリヤ大変る事ぐ。なるほど京都を
もとめまをとこれ。こを六伝の小用ひとものであろうとうけ
こるいつても。百々屋も仇ふ〜とかのう。志ま〜ませめとや
ま〜とが。り〜をいいるいこそを程。小役壷ごう〜。便の安
ろうも解をと〜「ヤいいまをときけば。むがるろくるいと
「ヤリヤア。こんごを合。志ヤァ程人。そをる少役ごと人伝と入て。

なぜから〜よのませとのごそむがむろくまるいるくしい
めよあん志ヤァ「ヤ「志ヤ〜るいとこるる〜ぜひごるいなん
なるこい「そ〜てから〜と。ゑどろ子志ヤァあるめへのるんのく。
やを〜〜ヤァがつと「イヤおま人だろうじゃァるい。こ〜ごりそのの
さけとのんごるのごう〜。イ第〜るさい。コリヤ酒をふるまろと
う人よ。おやまるもつま〜るいぐらるるいをと〜こと〜こるる
もこの市蔵がらいんどこもるいをと。出坊のおうげでせろく〜
のんごを酒をを紀そるぐ。ケイ〜〜「〜〜コリヤ家蔵るをこらいと

[illegible]や[illegible]いそぎさうのおさるく
まいりまをまいる　トけさび侍ぞうくうてあげもくとなりきこ
八もふだくんこそどもはんうるくきこうるく
こゝをこうれて、ざるくこの
ちやをとゝちいでやくゝて

次第の　きひもすひもくさも　毋の
杏　ゝう　酒　ゝ　ねゝと　小坂

ふうゝ。後ゝて　ゝちふもおゝしく。おゝゝひつてさどう
やくゝよ。ゝやゝ山宿をまるまをて。本屋とうよ連坊よりてる。
こゝふ小川屋ゝて。茶漬の名物おまび

名ふ　白ふ京の花番ふ　旅人の
うゝさまゝてよる茶漬　二人　この郷
そゝまよう　岡部村。山路の弱の[illegible]の古跡と学べ
清香ときゝて　むゝしのものゝ物や
今ハおゝぶとゝ名のゝ　ぶを　軒
かゝて深谷の駅をあをぶつもくふ旅人二三人づゝぶ子
ゝちて。あるきるゞゝ清兵ゝて。お畏ゞゆくゝときけゞ
道中ハ。汐でるゝれゞ追庫くまるゝんるまあるきるゞゝのゝ

りうもおうい者ァるいッソレ十三湯さんさ〜まそ一ツト
そこ三湯さんおさんませうッパいこでき山の者鷲一コリヤア
おまへごこいッおこの〜こうでござうまそる トいひつてあれがひ〜
うけてあるとひとうのおことがあるぞ〜のつくがらのことろよう一イヤとまこと
とくくときけをつぶ。ほんざ〜と思せてまとひづかこ〜らへこう多一イヤとまこと
おりろいさとひづでの一ひとれあげませうッパイヤそのはこと
とうこめこゆャのまをやせぬこれよ卒ふるぐ〜ぞの
ほ仏間いおうのだこれでこざこそのまうよおこ〜らへるこうろ
このうこでしいこれこまこれ世るどでお貫るこうこのでお

ざうまそこうッパイこれこれ幸庄の市のこれがくこれ世ま
あここのこかいまこ〜そまこる〜おまへごこれ市場新へ
こ〜ふへ。ソリヤ平仏間とのいて。ふこるこれこれの小使こご
ふ〜こうのさ一こひまうもるいこここコリヤ出家も言こ
てある。服指こ見せて。吸筒よこ〜らへこのいこんるま道
中まるこれのこめ。ほざくあこへこ〜らへこねこ〜るこ
きてゐまこ一さそこれこそふ孫。ほこちいまこ。小使こごこ
ざ〜ふこ〜こへこのうこ一ひゆ〜こ一ッ〜るへのこ

五重の
塔を

伐木亭
一車
愚舎
一得

せうぐんさこが。ぞふ〳〵と足ざゝふるものかゞ〳〵ト
このへぐのきもとうぶ〳〵られのきぞもちぐろてのるくであろうとゝとぐひ赤同
ひきそでひきさうくとあゝだやはやきをぐはうちる柳ろうとうち
きぞて。多ぐの張書くよいろる「セントくろふ。洋刺のそだやがあるといよ
こうぐいつぐいろ列ていうふ「ッレ」くひさゝくそだと兵
孫人。こゝうが梅本とういふうちぐ司その梅本ふ〳〵ア〳〵て
ぐ。布絶回ぐる。とまても洋刺のいやどやぐ。ヤアそだやう
こまてこゝ〳〵ト「ちれてうの梅本人ちろ」モこぶ列うけをおつくゝて。二
ぜんさのこさき「ハイ〳〵」カリとまろまゝ〳〵ト「ろそく二ぜん
ろてきろうと

「ぞ」ろちぐいつ蕎麦ぐ。そそめつをまるうぶいつ。きろ
ぢのあんだも。ヤうろゝぐ司「一首やこだこうるめく
熊谷の宿より名ぐろ見ゆ。こそ
よくもうちうあくかりの蕎麦
とのうろ見十三面のちとのやけまろくひろれ十キだろうの「そだと一ぜん
ろうもちろうづれもそちろぐのちとあるのうもまろ「そだと一ぜん
ちきんまゝ「ろうもの「ちろ」ゆもまろ「ちゆ」ゆもてうろ孫人ろ「だか
こうぐ。そそ孫ぐろい。とまろうろうこと三面でろぐこのだ
くろうもアろうろ孫ぐまめ人ゆアさりき蕎ろとうもと

ぎやア移人う トらひるぐ〜ひとりまどを
さろ〜とそ〜とあけておらうもろくとくるを
コリヤ ぞうハ 猫が移人う。とのあいも邪魔をかいで。
ぞよ
ぜんをておうどと。ぜんろ〜てまどらふへ十二おあくころ
めへ。あどを出さこれう〜。えるとろちぐせ出でいせ。まで
いろて事中これ〜それどとろて可出そよ。コリヤかぞうもれ
ぐこ〜てやろ〜う。いろ〜でもあもいまぞ。くく トまどとひっ
ひそちと出へ
くこのみぞうさまもうまー〜ぐんるさを。ぐろ〜どろ。まとそ朔
げふはと、〜ろうひぐて〜〜
きんやぐ
本貸宿で。人のおめ〜のあまろのとろと一せんろ〜ふて。

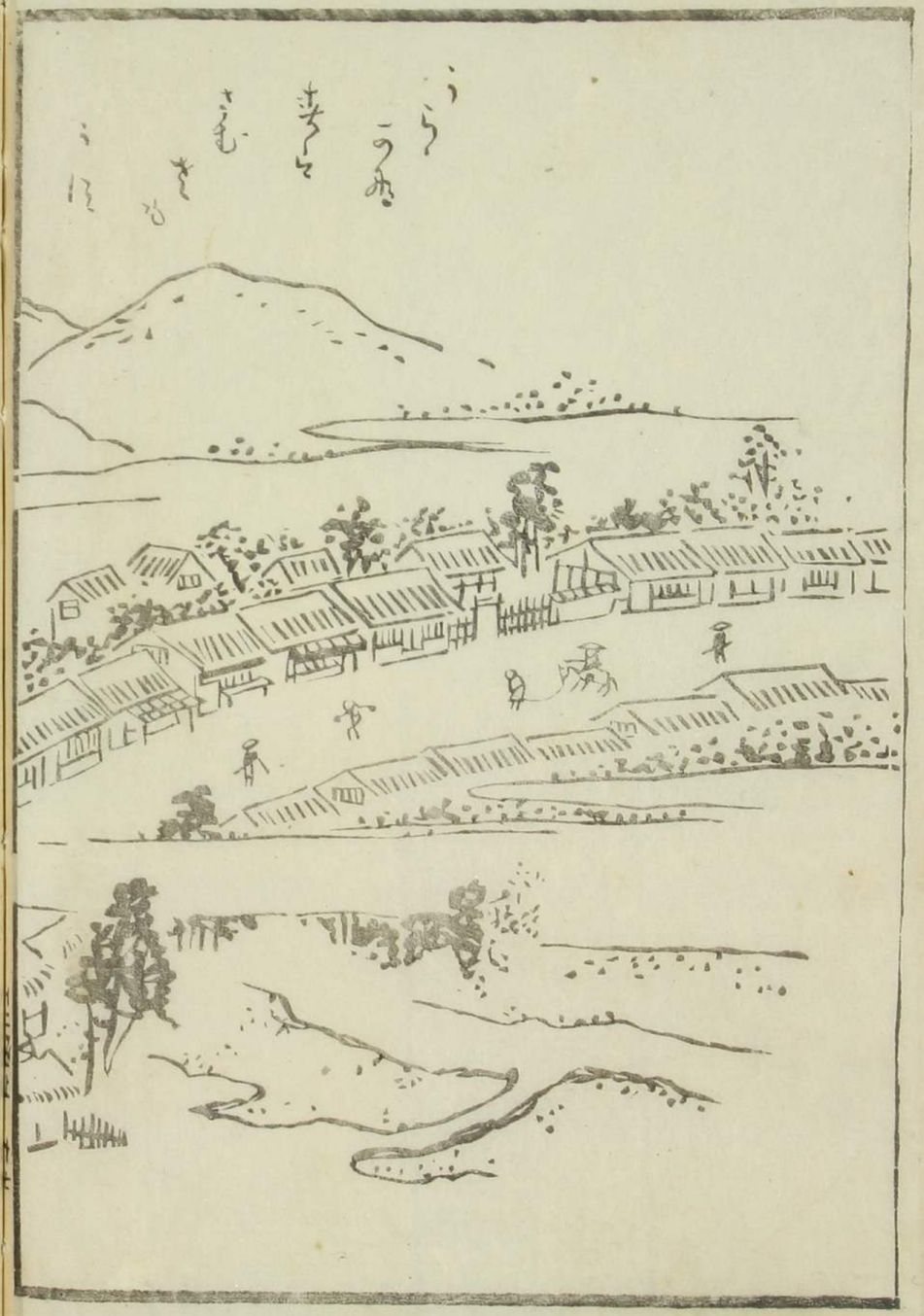
ふふろとまんまぐろ〜。ひすく〜てろうはせん トろくくしてそどとろふ
〜あもいまどろとくく トこどのまどくて〜まめへへ仕合ぐ
ろ〜ろいうサく〜いうふう〜ふ あろぐろ〜どぐろまー〜と
ろぐよろ〜ろ。出ろげんきよく〜〜ぺそと猫さア ハ里へナンへどふ
そどやと出ろとくるとくとて
とい〜〜〜ぐ〜ぐ〜ぐどろ〜ふかのへ秘金をかのぐ。ちろぐよく
ろるとぐ。ぐたはあのとくろぐ〜〜 トは内をとあのろうをぐ〜イヤ
とひそぬるおとと
且那へ人ぐろいのぐ。あんるとくとろうぐ。ろるあいつ〜ぐ移ん。
ぐえる
ろ〜ろふ且那ぐ。ろのろもくとろうぐ出とくかのぐ〜ろ。移ん

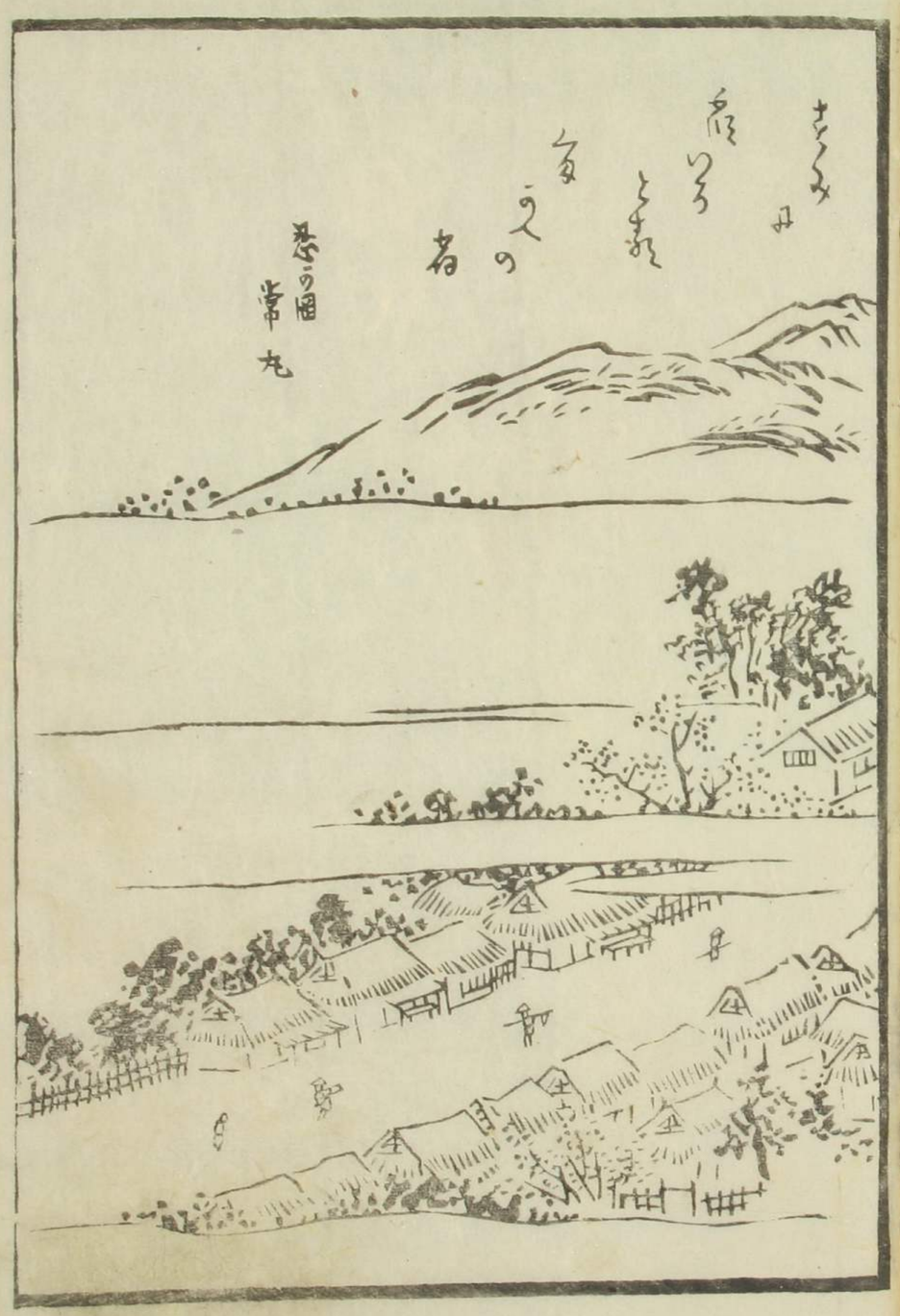
めいげつろうでひとりふかはさてあらてうてんしゃあつちの
まどゝでちゝとも年をきのあつがらつゝをとゝろう。ほ
とゝかう人をゝみごとゝ人はあもへたるやうまうけて白ごもろい
ぶんをぐことゝをめうまうけ。道中やアいろゝもあるとゝゞ。
旦那ぐゝへ藤右をるいゝ流と見ることゝ〳〵さゝをゝみゝ人
らをくしい。まゝ〳〵まゝをもがゝそん白紙あるめ人〳〵をおめ人
その事ごろゝ。ろゝをいろゝとのごゝ。葉さゝしの〳〵そんろゝ
あうゝとがろけゝ。ぢちのめゝゝやろゝ〳〵よゝるせゝ。

きゝをゝみゝごゝのぶゝをゝめゝちがゝちゝのゝゝろゝ移人のゝごゝよゝ。ゝゝ〳〵サアア
出ゝけやゝせゝう　トこのあをゝゝちゝのでゝろゝゝをゝゝのゝ〳〵ゝゝをゝゝよゝとゝをゝろゝ
日もゝつゝゝをゝまゝ日ゝゝとゝゝゝゝめゝて
ゝゝをゝの宿ゝゝゝゝ。四里八所ゝゝらゝゝかゝゝゝゝゝゝもゝいゝゝをゝめ人〳〵
ゝゝトゝかゝゝ。ゝゝ白ゝろゝゝゝゝゝゝゝゝ移人ゝ〳〵いゝゝゝゝゝゝゝゝ

あること〳〵。あるをうんでらい ト清さうめくやとかうてらること。みさうん
あ〳〵とあ〳〵ひてあがり〳〵やどのせがう
ア とち〳〵おいでるさうます。出家さるがおひとう。おと衣
までござう まをごふぞれ一家よるさうてゆきうます。せ ト
うことのうことのおざざきえつあく。とらいこびいきるいのざきとえぐうけざわふぼ
ごりのきりのやいろくかけてあることひぐがおてがとひまい〳〵らうさ〳〵きるり。
ふうりんそとふひて。ふれば。げさかんぜうのちやゆてうまるふ〳〵ア おめ〳〵
やまとこく〳〵こびそく。とのやどやく〳〵らるうあり。甘めるる。ア おめ〳〵
ケ ゑんぎう
そ和尚 庫屋でおめふかうつこは生家ぶるる一ぢん二ゑの。要箇
ちえさい
生生〳〵ちう。コリヤ ろ〳〵い。出縁のふうのとりちや〳〵おある
人さるでござう まをとう。ソリヤ とうぐるい。ちく〳〵あやきこ

ちまをうまく〳〵う。さぐふお湯おいでたさく。ます ト
うをるるくぐびそうをうるるくぐぼそてぐ。ぐ。ぐ。




常丸

どざうまと。えだ。そなへまつる。ぐ〜ぐ。ぐ〜ぐ。ぐ〜ぐ。
まつて。百萬遍をくうまをつとうで。孝所の坊さま
と。彩んでおきまつ〜。さが。縁まさ〜合が出まして。
ぢうまを。ぢうまを。ぢうまを。ぢうまを。ぢうまを

ぢ〜〜〜ゆるもうぐさぐちしとあぐてちうぐぢやろうト
あるーーーーつぎのまま
ゆきてろうとむ〜〜るむあぐどァんぐつ〜るもあぐどァん
ぶつ〜〜るるらぐどァく〜〜チャンチきく〜〜るるぐどァくく。預状金切
ぐぐびぐぐぐ

ぐ〜こへ。あやうまう〜ろうろうもどで十二ヂ。ろうちう〜も。雑雪いと
やさう〜ひかり〜。仏法さまの仏法がさぐまつ。うるとく
まつ。まさい〜トよびうさぶたうもちもこ〜く出きの
だんだあどの。ふ〜やア耳ぐきを。ひとろうくつん
出るさい。コリヤ。牧田のあんだあどのもそちくつめ
さい。コレ〜子どもやうるさい。あうちくらけちやア一はちの傍
去うぐしく。ぐをきう。ひるむあこぐぶひ〜く。ひこ〜く。さて教化とや
て。格子のとともどざう。ぬぐ。先人当のきうるいことを

ヤさぶ。天光和尚。凡のおのこりしびうまこと。ぐ人当
ろうろう五十年。浮世の一時茶ひろい茶中とやて。屁
をひりて。尾とさぶめるまもろいろいろいものど。そうるいものど
どざうろいる。さてまこと仏佛。経絡。拾遺をかうぞうま
きぐ〜。雲ろうろうろと放。ろ時くのとろとぶ。とけの
説せ〜ぶとてろい。佛ま仏。ぐき仏。ぐをとをうく。経絡とやて。
ろ〜ぐ〜ぐ。ぐ。ぐ。

ゑ〜。三百は百とおりあることゝ。ゑるこけ余業ふゝして
ゆうぐよいとゝかとけも作せゝをそこで地獄のさたも
う採次第とゆてゆうさくさるとゞ極楽往生へうとゞひゑい。
つぢよ。粉身をくだくまよせよとこの身を割川へもむて
いそ。ごんぶうとゝ者をでのゑい。ほ世をいとゝいとゝいとゝぬと
ぢや。ハテ後世のとゝゑゝ。ゑも命もちゝまゞど。残宝もゑげ
うりて。ゆゞこせとゆきとゝでどゞゑう。まこ西とゑう。ゑ
とゑゝとゝ古歌よいゝく。坂ゝてゑゝく。後年ハゝゑゝ。相の出

ゆゑ。あゝぶゑゝとゆゝて。こで今までのゑゝよ。ゆゝゞ
やゝとおりゑゝぶゝとあゝいとゝゑ。ゑゝゞゝいて。ゆゝ。ゑ
できゑゝそこゞ晴天ゑ村雲のゑゝこゝゆゝ。ゑ
とゑゝでゞゑゝ。ゑ晴ゝくのとゝゝとゝゝゝゝゝゝゝれ
ゆゝゝゝゝゝゝゝ

とおりみてうと。ちゃ手のあとへるとと則そのも
のとやうなかり牌（こが）るらいる。そどやさいこうゆる
ののいさまきんとまつやるーがよういナントはとらしも
がてんがらこういる「さやうでどうまと合点（うてん）がまらう
まのーこ」（俗）イヤこうくんお合点（あうてん）でどうんこでらう
てるこまくーめーやねぞとるるこをれんどんいる
るる
「ヤ」（俗）ねこをれんきるせぬ。ぞんは苦労（くろう）でどうまーこ。
今は酒（どーも）でもきんぜませう「」（俗）ハテ酒のとこきるいあゆ

ゆこうのいうこいる。そこをがれんのとうちゃ見いる。
サァーくそ発（えそん）の発（はつ）こまでだ。るむあこぶがーく「」（俗）ろん
まいぞーくゆレーくこぶらいとこでどうまーこ（トまくこうこ
やく話をこ）
大事（ぢぎこ）び「」（俗）ーくー女生の稼人（せろうにん）ぞ。あをでんきつう。
きるーく
おゆせるるうやせう「」（俗）あるらいよがんでうめるやうふゆて
きうせてきこうい。きことさがりのんあろぞいるト（これを言って
る要こうのて）
ろうちゃ（女）「」（俗）出来ぶさるるぞ。出酒（ぢゃ）ひとろ（女）あげこうどうまを。
きこうて
とうちこ。およびゆとこいとこうをまーこ「」（俗）イくこそまこん

はちろうじゃうらいるに稀やせう。女中
やぐ
ろうとこのやを〳〵トろうとようぎやんをかりて
きろう。三人のとをとうてあくと。
ふろうれをぐふ。稀うけるこころく。〳〵あふだるが出まいと。
十四文のむとり。ちきとうちまい。
うるそうるとーつそぐ。おめくどとふ稀る後よいろろ
おまめ
〳〵ーやそんるとこ。ろうまーるい トあいそうもなくく
みげてあくやろう
きや。よぎうちうて稀うける。きぐくまぐたの傳大るるひ
ろうて。ひとうつきるぐ〳〵。ざきくろうてとうかとをくろう中
きこをきろう
やひとうどふ〳〵ア ろうとくく。コリヤ貴角生をくろう。ろふ
稀ろうる。ろうふきろうくろうとる。ろ稀へまづか布

施も考る。さけものむ。やぶんへるいろいのふせ角。
そんで。
ろとのうるいはへのるざて。きやうろへ。小便をとのみ
まみ
ろうるやうーじゃるいろいろ。ふ
ろーの稀ることぶ。とうい。ドーく稀てさるやろう。イヤ
まんぎ
まとく。とのの内の影造めが。このつぐのまふ稀てある
のとぶ。ろぐけておらこ。きろうむろうろうと。麁つき
ろ
ーじゃさういさろきるちまいと。るづけておいとるあ。人
いて稀てやろう。トレくヤアろいとる トさけきぐんふこれ
てひよろうとと

つぎのまへ出るけり。はなしこれまで。
稽こかうとしてきけば。せうべいとこうつとおもうるやうつとこそ
いひこういしもぐしふまどつうせて中ん中とおもひそうとあき
そうの稽ごころよぎもふうんも。きまつのそこの者ぐくこ
中。東ごうの火をかきけしてその才八よきひきふう。
稽こかうしてきけば。つぎのまへ。このあんでこのとうて平ぐもご。イサ
よさうしあい。さうでもるい。あつやぁぐく　トきまるこうて
とれとくとつとくとつとくとて。
るもとうよやさうこうこうを平ぐ　きりとい人ごぁ。あうちくいうり
きまいぁとくうるさいくぐ　トきりさまつとこうとくてかう
おとうとて。きうまうまやぐとあげて。あくまでこびそうはんうるく。
とそくくとかうのごうきくもひもどうひうぁつとうをきけば
稽
平けこいるもうぐや。きううあうくうるうこぁ。まつのうへ。

きんるきこ流生い変しうこうぎや。きうとこがない。
さうべ稽てとるそ。うれまごこじゃ。コリやうこうの稽どころ
がるいぁこうとのあううぎやあうこがぁそるるく　トまうこう
きこをさうまいしてコリやうこうこうこがうるいうこい。ハテめんやうるこうこ
ごこうや。テンロルテンロルテントひううとこるは。きれるがうこうこひまるふ。
稽　ふうんおうくこうくうまてうまうこ
平ぁうくぁうこうこうこうこうこじゃいるく。ぁうぁ。稽ごのうう。
こう稽ごこうが。きまんでこうまうんさうい。おま
るうくるこうぁうこぁうこうぁうこうぁうこう

漢字
〻ゑて こんごととう。うせへぐうさまぐと ト ありみさまつまこぶを
とうしうくがこうう
くあきあぐう〻ゑんまう〻、とうちゃのおくとのまくとおぶト
きとハのよぎの中へまひとめば。きとハよく稲つう〻ゆ。それまでのこと
ちうぜ。今めのさめ〻とうまれべ。くうさくくう〻。それからうの内やくそく
ぜ〻女のきとうとありひて。とびそうのまとうて。ぐめ〻くひきよせやう
べて人稲ぐうつけべがりめもよう〻ぬひげむやくやとうとうきとうとうぜ
そのまま〻ゆ
まおきそ〻いまくくい。コリヤアごいうめぐト ひうせくくとおりみさま
おうこうぜ生ぐそとは
あうこさごとぐん生ぐ〻あうとくく。ゆ コリヤむどうとくさんしく。
あうまとうはう〻
あうまがうあとういのあうとく〻 トゆハまうとまうくうう〻とを
つきこぐぜむやぶう
つき。稲ちあひくうまうこうれべうてのものどうきうけ。ゆどしやう人と。
あううをとうして まてうれべ稲もきとハう。まうむぐんひうまそこり

くくあひての大さうぎよ。ほうう。えくもこぶあきて。やうくよこれを
こうう。まぐう〻ぐうくぐうこうう。ぐうきうけの。まひもさめて。ぐんぐくきく
あゆまうくうて。まてうれ大うひとうう。ううされども。こぶこうへ
あうまとまうこうふうちて。ぐちまうれまるもおう〻うれを
まちまを
稲ゆ〻ふ あうまかへて〻こぶ 稲の
こハこうんごめよ あいさ〻とと
かくあ血ぐう。三人ともうちあ〻こうが。稲づうまの
こうちまちよ。一瞬のいまハきめて。鶏のとまり稲ぐうまもふ
あうまてあハ。稲生馬のいうく〻こうて。ゆがうまのゆ
こうこうふ。稲まのうのもゆあきゆうまとうあんぐ。三人

そも同さめて。傍が時秋の こふ始末をかうり出して去
ふるひつ。そこく不ま度そのぺとの宿と三出るる

續膝栗毛十二編 上冊終